

## 質問事項集約 2

### 【林から】

H1) 日本では高校段階までに「整った文章」が書ける生徒はそれほど多くないと感じている(私的な経験からの類推では少なくともこの60年間)。大学での卒論作成活動を通して、「整った文章」が書けるようになるのではないかと考えている。その理由は、他人に理解してもらおうための、ある程度の分量がある文章を書く訓練を高校までに受けていないからではないかと推察している。フランスで「整った文章」を書けるようになるのは、どの年齢・段階なのでしょう。

→これは個人差が大きいです。一応高校修了段階では「整った文章」を書けることになっていますが、文法的な間違いや論理的でない文章は大学生でもよく見られます。ただし、論理的ではないものを論理的に見せかけて書くテクニックは日本人よりフランス人の方がうまいように思います。

※ここで言う「整った文章」とは、論理展開が正しく行えている文章のことを指し、「文法的に間違いがない(主語と述語が符合している等)」とか「接続詞が論理的に正しく使えている」等の条件を満足する文章であり、ビジネスライター等の定型文を念頭に置いているわけではない。

H2) フランスにおいて「整った文章」を書くにはどのような訓練が必要であると考えておられますか。

→フランスのフランス語教育ではとにかく文法ばかり子どもにやらせますので、公式な答えは文法になるかと思いますが、お尋ねしてみましよう

H3) 人間の成長段階のどの時点で作文技術の習得時間を確保するのが最適であるとお考えでしょうか。年齢や小中高大等の学校区分等。

→これもお尋ねしてみましよう

H4) フランスでは高等学校の哲学の授業で作文の「型」を教え、それに基づいてバカロレアの作文を作成する必要がある(型に準拠していないと高評価されない)と聞いている。この教育・訓練がフランスの高校生の「作文技術の向上」に貢献していると思われますか。逆にもしこの授業が無くなると作文技術は低下すると考えておられますか。

→中学校のフランス語教育においてもある種の型(というか文学の各ジャンルに固有の型)を学びますが、その観点からお答えいただくと面白いかと思います

H5) 日本の教育もご存知であろうと推察して質問します。もしフランスにおける作文の「型」の教育を日本の生徒に対して導入したら、効果を上げると考えられますか。

H6) フランスの高校生は「型にとらわれない作文」を書くような授業があるのでしょうか。

→「書き出し」を指定して続きを書く、詩の特定の形式を用いて書くなど、「型」を守れば比較的内容は問われない作文が多いのではないかと思います。

H7) より広く考えて「母語の育成・習得」には何が必要とお考えでしょうか。

H8) 日本では書く能力だけでなく読解力の低下も叫ばれている。フランスでは書く能力と読解力の経年変化のトレンドはどうなっているのでしょうか。もし現状に懸念があるのであれば、どのような方策を導入しようと考えておられるのでしょうか。

→これは資料にあたってみないとわからないので、私の宿題にさせてください。

H9) 上記の質問文は、文章校正支援ツール(商品名: Just Right!6)に通して、確認してある(ただし、期待されるほどに信頼性は高くはない)。フランスにも同様のソフトウェアがあるのでしょうか。

→Antidote は有名です

<https://www.antidote.info/fr/>